



題字は松井岳洋筆

No. 430
平成 27 年 10 月

発行

(公社) 日本詩吟学院 認可

碩心会

発行者 上村岳章

編集者 伊藤岳光

神奈川県三浦郡葉山町堀内 1285

Tel/Fax.046-875-3397

URL <http://sekishin.holy.jp>

副会長就任にあたって

副会長 有友嘉岳



このたび大役を仰せ
つかることになりました
たが、日を増すごとに
役割と責任の大きさに
肩の荷の重さを感じて

おります。磯村岳朋、高橋岳之両先輩との副会
長三人体制となりますが、私は主に総務・広報
業務を担当させていただきます。また本年、碩
心会は神奈川県風連合会吟詠大会、相州岳風連
合吟詠大会の開催幹事でもありますので、年末
まで準備に多忙を極めることになりそうです。

さて、碩心会は以前から「会員の増強」と「吟
力のレベルアップ」を目標としており、会長以
下日頃から常任理事会を核にして普及部が主に
「レッツ詩吟」、教務部は「吟道講座」や「師範
研究・研修会」などを通して目標達成に向けて
工夫と努力を続けていますが、一朝一夕には実
現が難しい状況にあります。

まず「会員の増強」ですが本年9月現在の碩

心会会員の平均年齢は74.5歳、今後高齢
体調不良を理由として退会者が年々増加するこ
と思われまますし、新入会者が現状程度の数で
あれば、近い将来、日本詩吟学院の認可団体認
定基準である150人以上を満たさなくなり、
伝統ある「碩心会」も消滅の危機に直面するこ
とになってしまいます。また「吟技の向上」の
ためにはコンクールで成果を出すだけではなく
「聴く者に感動を与えることができる吟」の実
現をさせるには、良き指導者のもとでの各人の
たゆまぬ練習に加え、若い血の加入が不可欠と
思います。

「碩心」前号で、上村会長が述べられている
ように2年後の創立80周年を会員数200名体
制で迎えるには会員それぞれが親戚、友人、知
己に詩吟の楽しみ、良さを語り掛け、この2年
間に各人が少なくとも一人は新入会員を誕生さ
せていこうという意気込みが必要だと思います。
他人任せでただ手をこまねいているだけでは前
進はありません。どうか会員皆様のご協力を頂
きますようお願い申し上げます。ご挨拶とい
たします。

葉山地区長を拝命して

葉山地区長 根岸 岳啓



この度、葉山地区長
に任命されました根岸
岳啓です。任期中中で
の異動で驚きと共に、
私には荷が重くプレッ

シャーでしたが、幸いにして留任の副地区長(中
山辰山・吉田桜山)そして新任の山本新岳さん
共に優秀な方々を迎えて頂けたので、会長始め
諸先生方のご指導を受けながら頑張る覚悟で
す。総会後前任者の行谷隆岳先生より引継ぎを
行いましたが、きちんと整理された書類を頂き
感銘いたしました。

地区長の仕事のひとつ「吟詠と詩舞の集い」、
今年は逗子地区担当なので、一緒に勉強させて
頂き、来年は会員の方々と共に楽しむ吟詠が出
来たらと考えています。

ある人が「天才は努力する者に勝てず、努力
する者は楽しむ者に勝てない」と言っています
た。楽しんで頂ける大会にしたいのでご提案等
ありましたらご一報下さい。

福祉施設の慰問も検討中です。その時は訪問
先の担当者と連絡を取り合い、入所者の方々に
喜んで頂ける会にしたいと思います。皆様のご
協力を宜しくお願い致します。

第35回 碩心会吟詠温習会

6月27日(土)、葉山町福祉文化会館に於いて標記大会が開催された。この大会は秋に開かれる吟詠と詩舞の集いと共に碩心会の全員参加の大イベント。日頃、吟道修得に励んだ成果の発表会。出吟者は16名に及ぶ。

式典で上村岳章新会長は「碩心会は平成29年に創立80周年を迎える。その時には200名を超える会員と各人の吟力の底上げを図り、記念大会を成功させたい」と挨拶され、これに先立つ許証授与では一層の精進と期待を述べられた。

今回のプログラム構成は独吟と競吟を中心に据えて吟詠のみ。独吟の部では「新会員」「青



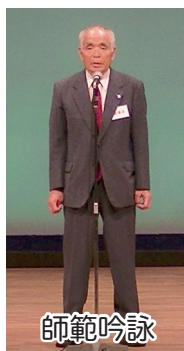
オープニング



許証授与



新会員吟詠



師範吟詠



連吟コンクール

少年」「一般」「師範」「役員」に区分、加えて「一般連吟」。順を追って聴くことで吟技の錬成、習得度が分かりやすく、今後の稽古の指標を得る機会にもなった。連吟コンクールは24チームのうち、8チームが入賞。真澄(菊池・青木・高橋) 滝の坂(広瀬・沼田・今井) 真澄(森・星野・石渡) 酔吟(佐藤・今井・大塚) 真澄(町田・森田・新井) 渚(久永・常盤・鈴木) 酔吟(山崎・植草・鈴木) 渚(原田・今原・三並)。上村審査委員長の講評は吟法の基本は言うに及ばないが、吟詠に共鳴を呼ぶにはマイクの使い方なかを研究することも大切、との指摘。一年の半ばなかに開催される温習会は中間試験おもむきの趣、緊張と熱気に包まれる。この余韻を明日の吟力アップに

繋げたい。夜
来の雨も午後には
は青空が覗く
常盤仙山

行事予定

- 神奈川岳風連合会吟詠大会
日時 10月12日(月) 開会9時45分
場所 横須賀市文化会館
- 第126回全国吟道大会
日時 10月18日(日) 開会9時30分
場所 熊本市民会館
- 現代名吟鑑賞会
日時 11月1日(日) 開会13時
場所 日本教育会館
- 逗子市詩吟詩舞連盟秋季発表大会
日時 11月3日(火) 開会10時
場所 逗子市文化プラザ・なぎさホール
- 葉山町文化祭
日時 11月15日(日) 開会12時30分
場所 葉山町福祉文化会館ホール
- 第7回相州岳風連合吟詠大会
日時 11月22日(日) 開会10時15分
場所 葉山町福祉文化会館
- 碩心会吟詠と詩舞の集い
日時 11月28日(土) 開会10時15分
場所 葉山町福祉文化会館
- 滝の坂支部創立40周年記念吟の集い
日時 12月4日(金)
場所 葉山ゲストハウスC33

尚歯会神奈川吟詠大会に参加して

滝の坂支部 坂上 葉風

9月18日、神奈川で6回目の大会に参加させて頂き、碩心会男性8名で楓橋夜泊・張継を大合吟で大いに盛り上げてきました。最近は全国的に開かれている「尚歯会」だが、その先鞭をつけたのが神奈川でした。5年前の第1回大会、鶴見公会堂に参加し、私は独吟で国分青崖の「紅葉館饗飲席上率賦」を吟じました。

仰々「尚歯会」が高齢吟者を奮起させる所以は、その古い由緒にあると思う。唐代845年に当時74歳の白楽天が自邸に長老6名を招いて詩歌吟詠の会を催したのが起源とされています(「白氏文集」)。これが伝えられるや、877年3月、南淵大納言が京の小野山荘で舶来の「白楽天尚歯会屏風絵」を得て、正客と陪席による長寿と健康を祝う、一流の吟士による宴を催したのが我が国の尚歯会の始め(「本朝文粹」と言われており、これには父祖以来の文士である当時33歳の菅原道真も参加していたようです。「人生に定年なし」の心意気で吟道を通じて社会に貢献する尚歯会の使命を遺憾なく発揮した大会であつたと思う。

先進の金川 万里翱ける
丹心 相識る 共に遊遊す
浩然たる気韻 詩もて志を言う
尚歯の謳吟 意 転た高し (仄起・四豪韻)

夏季吟道講座

平成27年8月22日(土) 葉山町福祉文化会館において標記講座が開催されました。

第一講は行谷隆岳先生による菅原道真の絶句「八月十五夜月前に旧を語る」次いで「自詠」について夫々作成された背景、基礎的な吟じ方について講義がありました。

第二講は内山岳青先生による陶潜の「雑誌」の講義がありました。

人生はユーモアもあつて面白いと漢詩で感じてもらいたい。また「止め」「二句三息」の呼吸法等を体得し、中・高音については特にこだわる必要はないがありました。

第三講は半間岳雨先生による俳諧歌一茶の「降りしける」「はづかしや」の講義がありました。先生は吟を柔らかくするため、平成24年以来上諏訪で俳諧歌講習を受けられ、濱岳優先生直伝の指導内容を理解容易に実技を中心に指導して頂きました。

第四講は上村会長による「おくのほそ道」より「最上川」の講義がありました。最上川は日本三急流の一つで当時川を通つて物を運び日本海に至つていた。中七を「集めて涼し」が「集めて早し」と力強い内容に変えられた。仙人堂には義経の家臣が祀られ、芭蕉の義経に対する思いが窺える。陰旋律から陽旋律に変わる要領等理解容易な指導がありました。 高見湘岳

全国俳諧歌吟詠大会に参加して

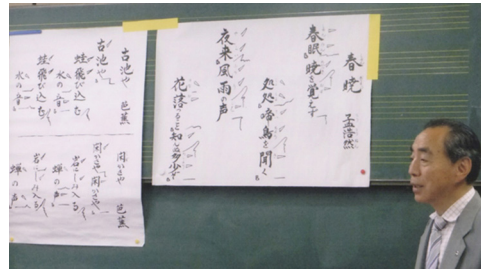
菊池 世岳

楽しみにしていたそれは始まった。どれ程練習を重ねたのであろうか。十人の息がピタリと合い、穏急強弱節調迄見事に仕上げられた組も有り、吟者の心が伝わり来る。感動の波が押し寄せる! 合吟競吟の部の事である。

課題は只ひとつ「老木桜」。どんな老木桜を描いてくれるのかと胸が踊った。そして期待どおりに多々の花を咲かせてくれた。ひっそりとして然し確かに咲く桜。老いた姿を誇るが如く晴れやかに咲く桜。計算されたかの如くピシッと合う吟。異なつた吟調に工夫されたもの等、思い入れの深さが感じられた。そして、合吟でここ迄感情表現が出来るものと初めて知り、身震いした。更に、同じ時を全国の仲間がこの一題に取り組んで来た事を思うと、何と素晴らしい事か! 企画担当者に拍手を送りたい。また独吟、一般合吟も素晴らしく、新鮮さと感動を頂いた大会であつた。同会場に東北の知人達が今年も参加。再会を約束して別れた。次回迄には何とか上達しておきたいものだと思ふ。碩心会の目標「吟技の向上」が脳裏に焼き付く大会でもあつた。当会からは本部役員を含む7名が参加。各々真剣な眼差しで聴き入り、有意義な時を過ごした。

碩心会に新たに中学生が入会

青少年副部長 加藤典山



6月25日、葉山町立南郷中学校2年生対象の体験学習の詩吟教室に2名が参加。当日は1時間、中国の漢詩と歴史の流れについて説明「春曉」のDVDを鑑賞した後、簡単な符付けと大きな声を出す事を教え、何回か繰り返し吟じた。2時間目は俳句「閑さ

や」「古池や」の二題を朗詠、宿題としてあった自作の俳句に、会長が符付けをし各自発表、池田龍平君は「二子山、さえずるうぐいす、ありにけり」堀田零士君は「山なみの、つらなる中で、和気あいあい」二人共とても素直ですばらしかった。池田君は6月のレッツ詩吟に、堀田君は7月のレッツ詩吟に参加され入会してくれた。堀田君は学校の詩吟体験学習で、昔の文化に興味を持ち大きな声で自分なりの思いを吟じ、気持ちが良い楽しかったと、入会への思いを話してくれた。



第35回 碩心会温習会 会計報告

科目		決算額	摘要
収入の部	出吟料	159,000円	1,000円×159名
	大会補助金	60,000円	本部より補助金
	合計	219,000円	
支出の部	温習会	13,000円	ホール、大会議室使用料
		16,850円	ホール、大会議室設備使用料
		21,620円	プログラム作成代
		5,620円	表彰状、詩文集
		19,064円	参加賞、その他
		96,896円	昼食代(お弁当・お茶)
	傷害保険	6,000円	東京海上日動火災保険
	事務・通信費	6,298円	コピー、FAX、文具、電話等
	会議費	13,986円	反省会、その他
	会場費	6,000円	説明会
	運送費	4,000円	買い物及び当日運搬費
	交通費	3,600円	駐車場代含む
	予備費	2,396円	紙コップ、養生テープ、その他
	小計	215,330円	
	本部会計返金	3,670円	
合計	219,000円		

「惜別」

鴨原隆岳先生を偲ぶ

恙なく審査終えりを報告す

幸和支部 黒田慶岳

師の残しし吟詠資料ひもとけば

旅立ちて早や四月の墓前

吟への思い深く伝わる

幸和支部 大江晴岳

さようならまた来週と別れしに

詩吟の師逝く当日の夜

漢詩と和歌新体詩など吟じつつ

逝きし師の姿浮かぶ試験日

会員のうごき

- *入会 (8月1日付)
198 堀田 零士 (滝の坂) 葉山町下山口 紹介者 南郷中学での詩吟 体験学習、レッツ詩吟
- *入会 (9月1日付)
199 北村 淑子 (東伏見) 葉山町一色 紹介者 有友 嘉岳
- *退会
73 池田 昭岳 (真澄) 176 工藤 明久 (篁風) 186 樋口京子 (篁風) 192 中條 千代子 (紫陽花) 196 鈴木 健二 (紫陽花)
- *教場変更 (やよい支部)
逗子市民交流センター → 逗子久木公民館
- *支部編入
諏訪支部を諏訪教場とし滝の坂支部に編入

編集後記

今夏は地球温暖化による巨大災害が日本・世界各地で起こり、自然災害に対処する情報の伝達、地域防災の必要を感じました。

来る「吟詠と支部の集い」にはご家族、友人、知人等多数の方にいらして頂き、詩吟を通して人と人の輪も紡いで行きたいですね。 広報部

27年9月現在	会員数
逗子地区	109名
葉山地区	75名
合計	184名